



## 葛城市相撲館「けはや座」の入館者が増加中 ～様々な PR が奏功し昨年度の外国人入館者は 500 人以上に～

### ■全国的にも珍しい相撲の資料館

日本書紀に、第 11 代天皇・垂仁天皇の時代にたいまのけはやのみのすくね當麻蹶速と野見宿禰の力比べが行われた記述があり、それが国技・相撲の起源とされている。その際負けた蹶速は現在の奈良県葛城市の出身と伝わる。

葛城市相撲館「けはや座」は、この相撲の開祖當麻蹶速の顕彰と、相撲に関する資料収集・公開、相撲の普及活動などを行うことを目的として 1990 年にオープンした公営施設。相撲の資料館は全国的にも珍しく、関西では唯一の存在だという。

館内 1 階中央にある土俵は両国国技館と同じサイズで、展示土俵であるため老若男女誰でも自由に上がれる。まわしや着ぐるみを身につけて力士になった気分で相撲を体験することも可能だ（要事前問合せ）。相撲に関する所蔵資料は約 12,000 点にもものぼり、期間限定の特別展も行う。展示内容を多言語で紹介するため専用タブレットも導入しており、英語、フランス語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）、日本語に対応。見たい資料のページを表示し画面にタッチすれば各言語でのナレーションが流れる仕組みとなっている。

### ■様々な PR が奏功し外国人観光客の来訪も増加

オープン当初は物珍しさから年間約 6,000 人の入館者でにぎわったが、その後のバブル崩壊に伴い客足は減少。しかし近年の相撲ブームや女性ファン人気に加え、外国人観光客の来訪増加などを要因に、2017 年度には過去最高の入館者を記録した。入館者のうち外国人について見ると、16 年度が 400 人弱、17 年度が 500 人以上と大きく増加。中国・韓国・台湾からの来訪が多いが、ここ 2、3 年はフランス・米国・オーストラリアなどからの来訪も増えているという。

けはや座の運営を担当する葛城市商工観光課のひろなお小池弘悌課長補佐は、外国人観光客の来訪が増加

した大きな要因として県や奈良県ビクターズビューローと連携したプロモーションの効果を挙げる。

実は小池氏は中学から大学まで相撲を続け国体出場経験もあるほどの実力の持ち主。17 年 3 月にパリで開催された国際旅行博に出展した県のブースに葛城市も加わり、小池氏がまわしを締めてフランス人相手に模範相撲を取って PR に努めた。旅行会社のインバウンド（訪日外国人旅行）担当者を対象に県やビューローが開催したファミトリップ（視察旅行）では、けはや座が何度も視察コースに組み込まれ、それも外国人観光客増加につながったという。

近年の体験型観光への関心の高まりもあり、「外国人観光客は土俵で力士の疑似体験をして写真撮影等ができることをとても喜んでくれる」と語る小池氏。今後については、「膨大な所蔵資料の整理を進め、図録を作ったりネット上で資料検索できるようにしたい。また『相撲検定』なども実現できれば」と目標を掲げている。（吉村謙一）

- ・アクセス…近鉄当麻寺駅下車西へ徒歩 5 分
- ・休館日…火・水曜日（祝日の場合は開館）、年末年始
- ・入館料…大人（高校生以上）300 円、小・中学生 150 円、幼稚園以下無料、団体割引あり（20 人以上）



建物正面の両国国技館をイメージした撮影スポットは「インスタ映えする」と人気（左上）、40 トンの赤土を固めて作った土俵（右上）、大横綱・双葉山が使った行李「明け荷」などの貴重な展示品（左下）、オリジナルのお土産も販売（右下）